

令和2年度 調査研究報告書

**「新しい時代に必要な資質能力を
育成するための教育課程の編成と校長の役割Ⅱ」**

福 井 県 小 学 校 長 会
福井県小学校長会調査研究委員会

はじめに

福井県小学校長会長 巢守 俊彦

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、多くの市町で新年度のスタートが約2か月遅くなりました。学校でも「新しい生活様式」が始まりましたが、教育活動に大きな影響を与えています。学校の当たり前が当たり前でなくなり、子どもたちが集団で話し合ったり、作業をしたり、歌を歌ったりという、最も小学校らしい教育活動が制限されています。そのような中、子どもたちや教職員の健康安全を守りながらも、教育課程の工夫や日々の授業改善、ICT環境の整備など新たな取組も始まっており、今まで以上に、校長のアイディアとリーダーシップの発揮が求められています。

また、今年度は、新学習指導要領の完全実施の年です。教育活動の質を高めるためのカリキュラム・マネジメントをさらに進めていく年でもあります。加えて、学習評価の改善に向けての組織体制を整備し、検討していくことが必要となります。

さらに、給特法の改正により、学校における働き方改革が本格的に動き出した年でもあります。本県では、平成31年2月には福井県教育委員会で「福井県学校業務改善方針」が策定され、この方針に基づき、各学校において教員の働き方改革が進められているところです。このようなときだからこそ、様々な課題に立ち向かうための情報と解決策の共有が必要です。

今後、学校はWithコロナからPostコロナへと大きな転換期を迎えます。その際のキーワードは、「ハイブリッド」だと言われています。一斉授業か個別学習か、履修主義か習得主義か、デジタルかアナログか、オンライン学習か対面授業か、という二項対立ではなく、それぞれの良さを組み込むことが求められることとなります。常に大局的な見地から、時代の推移や社会の状況を把握し、いかに自己調整力を有する児童を育成していくかが校長の責務になるかと思えます。

さて、今年度も調査研究委員会のご尽力と会員のご協力により、調査研究報告書「新しい時代に必要な資質能力を育成するための教育課程の編成と校長の役割Ⅱ」が作成されました。本報告書は、全連小と連携した調査項目に本県会員の要望に基づく独自の調査項目を加え、我々校長が何を優先し、どのように対応しようとしているのか、何を強く要望しているのかが明らかにされています。また、まとめられた調査研究報告の内容は、前年度と比較調査を行い、併せて全国との比較も加えています。このことにより、学校経営上の今日的課題がより明確になっています。

だからこそ、私たち校長は、組織の総力を挙げて課題解決に努めるとともに、積極的に政策提言を進め、もって県民・国民の信頼に応える必要があります。本報告書の調査結果を踏まえ、校長として現状を深く認識し、教育改革の動向を的確に把握しながら、リーダーシップを発揮し、確かな計画と実行力をもって教育の成果を上げていかなければなりません。そのために、校長は自らの使命を自覚し、権限と責任の下に、未来社会に夢と希望を持ち、たくましく生きる児童の育成を志向して、活力ある学校づくりに努め、本県の教育がさらに充実したものとなるよう舵取りをしなければならないと考えています。

最後になりましたが、本調査研究報告書の発行にあたり、調査項目の設定、膨大な調査結果の集計、整理、分析、報告書の執筆に取り組んでいただいた調査研究委員各位、並びに調査にご協力いただきました県下各小学校長の皆様、関係各位に心よりお礼申し上げます。